

第1回 ARG WI2 研究会 学生報告

平成 24 年 12 月 14 日, 15 日

1 はじめに

平成 24 年 12 月 14 日 (土) と 15 日 (日) に, 神奈川近代文学館にて第 1 回 ARG WI2 (Web インテリジェンスとインタラクション) 研究会が開催された。本研究会は独立した運営組織として再スタートしてから初の開催となったにもかかわらず, 参加者は一般が 98 名, 学生が 24 名の合わせて 122 名と盛況であった。

本報告では, ARG WI2 研究会の概要について述べ, 特別講演および一般講演の中から筆者が特に興味深いと感じたものをいくつか紹介する。

2 ARG WI2 研究会概要

今回の ARG WI2 研究会では, 18 件のショート発表 (発表 13 分・質問 5 分) および 9 件のロング発表 (発表 20 分・質問 10 分) が 7 つのセッションにわけて行われた。加えて, 「Web インテリジェンスとインタラクション研究の未来」と題して 5 件の特別講演が行われた。各セッション名は以下に示す通りである。

- セッション 1 教育・学習支援と Web
- セッション 2 情報推薦
- セッション 3 ソーシャルインタラクション
- セッション 4 ユーザ行動分析
- セッション 5 情報検索
- セッション 6 CGM 分析
- セッション 7 ライフログ

3 特別講演

今回の研究会では「Web インテリジェンスとインタラクション研究の未来」というテーマで, 土方嘉徳氏 (大阪大学), 高間康史氏 (首都大学東京), 大向一輝氏 (国立情報学研究所), 井口誠氏 (Kii 株式会社), 鍛冶伸裕氏 (東京大学) による 5 件の特別講演が行われた。本講演は当日の日直当番 (?) からの号令による全員起立および挨拶から始まり, その後 5 名による授業という形で進められた。このように, 特別講演は終始自由かつ和やかな雰囲気で行われ, 内容も分かりやすく大変興味深い内容の講演となった。



図 1: 土方委員長による開会の挨拶として, 安定的かつ持続的な研究会の開催など, 本研究会の理念について説明が行われた。

まず, 土方氏から “Human-Recommender Interaction” と題して情報推薦技術の歴史と最近の研究動向について解説があった。近年, 推薦システムの評価指標として推薦精度だけでなくセレンディピティが重視されていることは国内外の研究動向からも明らかであるが, その他にも推薦プロセス全体に対する満足度やシステムへの嗜好伝達感など, 情報推薦分野の主要な国際会議である RecSys における動向を中心に解説があった。

続いて, 高間氏から「情報可視化によるテキストストリームデータのモニタリング支援」と題し, CGM やニュース記事のようなテキストストリームデータのモニタリング技術を用いて, 従事している作業を妨げない範囲で情報を提示する技術について解説があった。このような研究が行われる背景として “Interruptibility” と呼ばれる概念が注目されているとのことで, 「中断されたタスクの 40% は再開されず, また再開されたタスクを終えるには 2 倍の時間がかかる」という調査結果が印象的であった。

大向氏からは「セマンティックウェブの次のステップ: オープンデータと知的処理」と題して, 多様な情報源のデータ連携を実現する Linked Open Data (LOD) について解説があった。本講演では LOD の概要だけでなく, DBpedia や Freebase など既に公開されているサービスや公共データのオープン化が行われている事例が紹介され, それらの例に基づいた知見が興味深いものであった。

井口氏からは「研究成果の実用化に向けたセキュリティ・プライバシー保護技術の課題」と題して、情報推薦などユーザの行動履歴を取り扱う技術を実用化する場合の注意点や、プライバシーの課題に取り組む研究動向について分かりやすく解説があった(図2)。セキュリティだけでなく、特定アイテムの評価を不当に操作する攻撃に対する耐性が推薦システムの評価指標として必要である、という井口氏の提言は筆者の研究においても重要なものであると感じた。



図2: 特別講演の様子。講演は終始自由な雰囲気で行われた。時間の都合で質問時間が少なかったことが残念だった。

最後に、鍛冶氏から「CGM テキストを対象とした自然言語処理: 今後の展望と課題」と題して CGM 分析技術の最新動向について解説があった。従来は評判・感情分析や実世界のセンシング(地震などのイベント検出)が中心であったが、現在注目されているものとして統計的な対話技術および群衆とインタラクションによる学習、社会インフラとしての CGM 分析など、多くの興味深い事例が紹介された。

4 一般講演

一般講演では情報推薦やユーザ行動・CGM 分析といった分野を中心に発表があり、その中で筆者が特に興味深いと感じたものをいくつか紹介する。

深澤らによる「クロスドメインの情報推薦に関するサーベイ」では、クロスレコメンドの課題としてスパース性、ドメイン間で共通する履歴が希薄になってしまう問題点などについて報告された。ユーザの利用履歴の増加が推薦精度向上に必ずしも繋がるとは限らず、関係のないドメインの履歴が逆に精度低下を引き起こすという指摘は、ビッグ・データという言葉が流行し大

量の行動情報の活用が有望とされている今後の推薦システムの開発において重要な知見であると考えられる。

中村による「主観写真ライフログ探索のための時空人間の活用」では、写真ベースのライフログを効果的に利用するため、時間・空間・人間という3つの間を利用した能動的探索手法について提案された。提案システムは LifelogViewer という名前で公開されており、その完成度の高さだけでなく本人が提案システムを用いて膨大なライフログを記録している点が驚くべきものであった。

渡部による「若年者と高齢者のブログに表れたパーソナリティタイプの相違」では、心理学の観点から社会情動的選択制理論による積極性効果とビッグファイブ仮説に基づくパーソナリティタイプに関する分析結果が報告された。筆者は心理学についての知識は乏しいものの、ブログを始めとした CGM・ユーザ行動の分析において心理学の知見は重要なものであり、非常に興味深いものであった。

中嶋らによる「末尾に不読符号列がある短い回答をくりかえし Yahoo!知恵袋に投稿するユーザの調査」では、2ちゃんねるにおける「ゲッター」のような1件目の回答を狙うユーザが Yahoo!知恵袋においても存在するのではないかと着目し、句読点や記号などの不読符号列を用いてそれらの回答を検出・調査した結果について報告された。本発表は着眼点がとてもユニークで面白いと感じた。



図3: 会場の様子。一般講演では会場だけでなく Twitter 上においても活発な意見交換が行われた。

5 Twitter の活用

本研究会の特徴的な点として、Twitter の活用が挙げられる。会場には講演者が用いるスクリーンの他に Twitter のタイムラインを表示するためのスクリーン

が用意され、ハッシュタグ#sigwi2 のつぶやきが会場
でリアルタイムに参照できる。Twitter 上での議論が
可能になることで会場からはあまり質問がされないの
ではないかと危惧したが、会場では質問者が多すぎて
時間が足りない発表がほとんどであり、筆者も手を挙
げて実際に質問できたのは2回に1回程度であった。

加えて、本研究会では表彰式においても出張で会場
を離れてしまった講演者に対して Twitter 上で表彰状
の授与を行うなど、他の研究会では見ることでできな
い工夫も行われた。このように、従来の慣習にとらわ
れない自由な文化が本研究会の魅力と言える。



図 4: 表彰式の様子。表彰の一部は Twitter を利用して
オンライン上で行われた。



図 5: 懇親会の様子。活発な意見交換と共に中華料理と
紹興酒を楽しんだ。

6 懇親会

会場の神奈川近代文学館は中華街に徒歩でアクセス
できるという絶好のロケーションであったことから、今
回の懇親会は中華街の老舗である大珍樓において行わ
れた。中華料理や紹興酒を交え、活発な意見交換など
で大いに盛り上がった。筆者としては時間の都合で二
次会に参加できなかったことが非常に残念であった。

7 おわりに

今回の研究会は2日間にわたって午前から夜まで開
催され、多くの興味深い発表や活発な議論は筆者にとっ
ても学ぶところが多く、非常に有意義な研究会であっ
たと感じた。今後も積極的に参加し、また研究成果の
発表も是非行いたいと考えている。

服部 俊一（首都大学東京大学院）